進む堆砂、ダム治水に警鐘

防災を考える市民の会 今本さん（淀川流域委員長）が記念講演

防災を考える市民の会（志岐常正代表）の結成11周年の集いが、19日に宇治市産業会館（宇治琵琶）で開かれ、「ダムが国を滅ぼす」の著者の今本博健・京都大学名誉教授（淀川水系流域委員会・元委員長）が「宇治川治水問題を斬る」の演題で記念講演した。

治水に関する考え方の変遷や淀川水系の河川整備計画を検討する流域委でも議論となった天ヶ瀬ダム再開発の是非をめぐる論点をふまえた講演では、堆砂が進んでいる国内のダム事情を河川工学の専門家の立場から説明。

「ダムによる定量治水は堆砂の進行で機能低下しており、いくら定量治水の枠内の議論を重ねても駄目。今は非定量治水の議論が必用だ」と指摘し、「ダムが水害を防いだ例はほとんどない」と断言。

琵琶湖沿岸の水害は琵琶湖総合開発で激減しており、水余り現象の下、新たな水源開発は不要、天ヶ瀬ダムの放流能力の増大は危険だとした開沼淳一さん（国土問題研究所理事）の問題提起をふまえ、「堆砂で機能低下したダムによる治水よりも、堤防補強の方が大切だ」と力説した。

【岡本幸一】

【写真は結成11周年の集いで記念講演する今本博健さん】